

「平成29年度 松陽高等学校 不祥事ゼロプログラム」検証結果

I 「目標及び行動計画」と実施状況

(1) 円滑な業務執行体制の確立（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制）

目標 学校の業務進行状況等について全職員が共有し、相互に協力しあう風通しの良い職場づくりをはかる。	
行 動 計 画	実施結果と目標の達成状況
<p>i 定期試験、成績処理、調査書発行、進路関係書類の取り扱い、入学者選抜業務について手順を確認しながら作業にあたる。チェック項目一覧表での点検を適切に行い、万全の体制をもってあたる。</p> <p>ii 職員間、グループ間等で相互に連絡、連携しあえる業務遂行態勢づくりに向け、業務の進め方、会議のあり方等について日々の活動を通じて意識を高め、改善をはかる。</p> <p>iii 本校の業務執行体制に係る課題等について振り返りの機会を設定し、全職員で課題等を共有し、改善に向けた検討を行う。</p>	<p>打ち合わせにおける掲示板利用、情報の共有化、組織内チェック、業務の協力、引継体制を推進して効率的で円滑かつ確実な業務執行体制となるよう指導した。</p>

(2) 適切な経理処理

目標 適正な経理処理（公費、私費、部費等）の手順について理解を深め、公正かつ透明な会計処理を実現する。	
行 動 計 画	実施結果と目標の達成状況
<p>i 各種報道、啓発資料等を活用し、全職員に継続的な意識啓発、注意喚起を行う。</p> <p>ii 適正な会計処理を日々の予算執行手続きの中で実行することで適切な経理処理手順を職員に浸透させる。</p> <p>iii 本校の課題等具体的な事例を踏まえた校内研修会を設定し経理処理に係る理解を深める。</p>	<p>私費会計処理、についてマニュアルを配付し、適切な会計処理について徹底を図った。部費・合宿費会計についてもマニュアルを配布し、会計処理の共通化を図った。また、会計監査や財務事務調査の結果を職員会議で報告し、業務改善に努めた。</p>

(3) 個人情報等の管理、情報セキュリティ対策（パスワードの設定、誤廃棄防止）

目標 個人情報の適切な管理、取扱いに努め、個人情報流出等の事故を防止する。	
行 動 計 画	実施結果と目標の達成状況
i 各種報道、啓発資料等を活用し、全職員に継続的な意識啓発、注意喚起を行う。 ii 本校の情報取扱いに関する諸規程を再確認するとともに、必要な手続き等が適切に行われているか定期的に確認する。 iii 本校の課題等具体的な事例を踏まえた校内研修会を設定し適切な情報管理に関する意識の向上、取扱いをはかる。	学校管理USBの使用、個人情報の持出しには規定の徹底を図った。教務手帳の一元管理を図り、持出禁止の徹底を図った。外部講師を迎えた不祥事防止研修会や不祥事防止校内研修会を通じて、調査書、通知表等に係る事故の防止について注意喚起した。また、個人情報の扱いについて機会あるごとに注意喚起した。

(4) 体罰、不適切な指導の防止

目標 松陽高等学校「いじめ防止基本方針」にのっとり、生徒の人権を尊重し、信頼感が育まれる適切な生徒対応に努め、体罰や不適切な指導の根絶をはかる。	
行 動 計 画	実施結果と目標の達成状況
i 各種報道、啓発資料等を活用し、全職員に継続的な意識啓発、注意喚起を行う。 ii 定期的に設定される情報交換会議や学年会等を通じて職員間の生徒情報の共有化をはかり、言葉がけ等個々の生徒に対する適切な対応に努める。 iii 本校の課題等具体的な事例を踏まえた校内研修会を設定し、体罰、不適切指導の防止に向けた意識を深める。	不祥事防止研修会や体罰調査の機会を通じ、人権に配慮した適切な生徒指導の徹底を図った。

(5) セクハラ・わいせつ行為の防止

目標 教育公務員としての自覚を深め、人権感覚の醸成に努め、セクハラ・わいせつ行為の根絶をはかる。	
行 動 計 画	実施結果と目標の達成状況
i 各種報道、啓発資料等を活用し、全職員に継続的な意識啓発、注意喚起を行う。 ii 本校の現状をふまえた校内研修会を設定し人権意識の向上をはかるとともに、相談しやすい職場環境づくりの手立て等について全職員で考え、取り組んでいくよう努める。	不祥事防止校内研修会を通じて、教育公務員としての自覚を持った行動をするよう注意喚起した。また、県からの啓発資料や記者発表資料等の事例を紹介し、教育公務員としての自覚を促した。

(6) 公務外非行の防止（法令遵法意識の向上）

目標 教育公務員であるとの自覚を深め、生徒、保護者及び社会から信頼される行動をとる。	
行 動 計 画	実施結果と目標の達成状況
i 職員行動指針の内容を周知徹底するとともに、啓発資料等を活用し、全職員に継続的な意識啓発、注意喚起を行う。 ii 自己点検シート等を利用した自己チェックを実施するとともに、具体的な事例を用いた校内研修会を設定し意識の向上をはかる。	不祥事防止校内研修会を通じて、教育公務員としての自覚を持った行動をするよう注意喚起した。また、県からの啓発資料や記者発表資料等の事例を紹介し、教育公務員としての自覚を促した。

(7) 交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守

目標 交通事故及び酒酔い・酒気帯び運転による事故を未然に防止する。	
行 動 計 画	実施結果と目標の達成状況
i 各種報道、啓発資料等を活用し、全職員に継続的な意識啓発、注意喚起を行う。 ii 具体的な事例を踏まえた校内研修会を設定し交通ルールの遵守、マナーに関する意識の向上をはかる。	不祥事防止校内研修会を通じて、教育公務員としての自覚を持った行動、法令遵守の意識の啓発を図った。

II 検証・評価

(1) 今年度の成果について

- ・不祥事ゼロプログラムに沿って、事故・不祥事が起こらないように繰り返し職員へ啓発を行ってきた。
- ・事故・不祥事防止会議や朝の打合せを活用し、時機に応じた注意喚起を継続して実施したことで、事故不祥事防止に係る全職員の意識の向上を図ることができた。
- ・職員会議後に行う事故・不祥事防止会議での校内研修会について回数、内容ともに充実化を図るとともに、研修会をとおして公務員としての社会的な立場について改めて振り返る機会を持ち、職責の重さに関して個々の職員の自覚を深めることができた。
- ・管理職と職員との面談を行い、生徒対応や業務執行体制等での課題を確認するとともに、事故・不祥事防止に向けた職員の意識を高めることができた。
- ・外部の講師を招いての研修会では、定期テスト、調査書、通知表等の事故事例も参考に、成績処理上の課題とルール、事故防止について理解が深まった。

(2) 今後の課題について

- ・定期試験等持ち帰り禁止を踏まえ、採点・成績処理における業務の適切な管理を行う。また、部活動顧問の入れ替わりも激しいので、部員との連絡等における個人情報収集手続きを確実にを行う。
- ・例年大幅な職員が入れ替わり、比較的若い世代の教職員も多い所属であり、教職員としての基本的な行動指針の徹底が必要である。これまでの事故・不祥事防止の取組を繰り返し、また、時機をみて効果的な課題を工夫し、さらに、職員の面談を活用し個々の職員に事故・不祥事防止に対する意識の向上と適正な業務遂行の徹底を図る。